

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす

- 1 自立心と進取の気概を育成する
- 2 フェアなルール感覚を育成する
- 3 多文化共生・国際教育を推進する
- 4 科学的・論理的に考え行動する人材を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。

- ア 説明・発表・討論等を通じて、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。
- イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。
- ウ 資料の読み取り、文章読解といった「読解力」を育む授業づくりに取り組む。

(2) 新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり、学習指導を推進する。

- ア 観点別学習状況評価により、生徒に「学び方」を学ばせ、「学ぶ力」を育成する。
- イ ペーパーテストのみによらない評価（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価など）により生徒の学習成果を様々な観点から評価する。

(3) 「総合的な探究の時間（LINC）」の内容を充実させ、自ら課題を発見し、調査しまとめ、発表する力の育成をめざす。

(4) これまでの教育活動の実績に基づき、実践的な英語教育と多文化共生・国際教育を一層推進する。

- ア GTEC を全員受験（1・2年）とし、英検等の受験を勧め、4技能バランスのよい英語力の育成をめざす。
- イ 社会状況を見据えながら、外部機関との連携やオンラインなどを活用して異なる文化に触れる機会を創出し、新しい形の国際交流を推進する。

(5) この数年間に整備した ICT を活用するより質の高い授業と講習を実施する。

(6) 希望進路達成率（第2希望も含めて）令和6年度には85%以上をめざす（R1：74.3%、R2：80.8%、R3：81.2%）。

2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成

(1) 生徒会活動の活発化を図り、学校行事を充実して全生徒の自律心と自立心を高める。学校生活の充実度を高める。

(2) クラブ活動の充実をめざす。各部が成果を出せるよう積極的に支援を行う。令和6年度には加入率80%をめざす。（R1：77.7%、R2：73.4%、R3:72.6%）

(3) 教職員が人権感覚を高め、生徒が安心して通えるいじめや差別のない学校づくりのため、積極的に人権教育を推進する。

(4) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。

(5) キャリア・パスポートを活用しながら、生徒一人ひとりが自らの学びや生活を見直し、振り返ることができるようにする。

3 家庭や地域、世界とつながり、発信していく学校づくり

(1) ユネスコスクールとして国際交流、地域交流そして社会貢献を推進する。「人権」、「国際理解（国際協力）」、「ESD（持続可能な開発のための教育）」等による「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取組みなどを通じ、グローバルな視野をもった人材を育成する。

(2) 保護者へは本校教育の理念や教育の実施状況を、地域には学校の取組み内容や状況をタイムリーにかつ具体的に発信する。

(3) 生徒が自主的に行動できるノークラブデーを有効活用するとともに、教職員の働き方改革も推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 肯定的評価について（数値は肯定的評価の割合）</p> <p>(1) 生徒及び保護者の回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えたり発表する活動 [生徒 89.8%]、学習評価について [生徒 90.1%・保護者 86.8%]、授業での ICT 活用 [生徒 95.7%] ・秘密の厳守 [生徒 89.9%] ・進路指導 [保護者 82.0%]、学校行事 [保護者 87.0%] <p>(2) 教職員の回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での ICT 活用 [96.3%] ・いじめ対応の体制 [98.2%]、生徒指導における家庭との連携 [98.1%] ・校長のリーダーシップ [96.2%] <p>※ここでは、肯定的評価の割合が特に高いものを挙げている。</p> <p>2 否定的評価の多い項目（数値は否定的評価の割合）</p> <p>(1) 生徒及び保護者の回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」[生徒 39.7%]、環境・国際理解・福祉ボランティア [生徒 30.5%]、1人1台端末の活用 [生徒 37.5%] ・生徒指導 [生徒 32.6%]、教育相談 [生徒 35.3%・保護者 27.0%] ・進路に関する情報提供 [保護者 29.8%] ・学校が楽しいか [生徒 24.0%・保護者 26.7%] <p>(2) 教職員の回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備 [30.8%]、人権教育 [28.3%]、分掌・学年間の連携 [26.4%] <p>3 生徒・保護者と教職員の回答の差が大きい項目（数値は肯定的評価の割合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する情報提供 [教職員 96.2%⇔保護者 74.0%] ・ホームページの活用 [教職員 90.6%⇔生徒 24.3%・保護者 37.2%] ・担任以外にも相談できる [教職員 94.2%⇔64.7%] <p>学習活動や進路指導については、概ね高い評価を得ているが、総合的な探究の時間については改善が必要。生徒指導、教育相談については、納得感・安心感につながる取組の工夫と積み重ねを進めていきたい。否定的評価の多い項目を中心に丁寧に分析することを通して、生徒が学校へ行くのが楽しい、本校で成長したと実感できるよう、教職員全体で生徒をサポートすることが必要である。</p>	<p>第1回（令和4年5月14日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を学校経営計画に位置付けたことを評価。 ・国際科の取組を工夫し、発信していくことが必要。 ・進路指導の取組が充実している。取組が根づいて継続するようにすべき。 ・環境整備をさらに進めてほしい。 <p>第2回（令和4年9月26日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化科の特色を明確にすること必要。実際には、質の高い取組が行われているので、その中に特色として打ち出せることがあるのではないかと。 ・スクールミッションは、歴史ある泉佐野の地域性の中で本校が歴史と伝統を積み上げてきたことがわかるような表現にできないかと。 <p>第3回（令和5年1月28日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは、「新しい学力」の育成が求められており、「総合的な探究の時間」で培われた力が確実に大学以降での成長につながる。そのためにも、教員も学び、生徒の思考に寄り添うことが必要である。 ・生徒が将来就きたい職業から逆算して、何を学ぶかを考えることが大切。 ・今年度の取組、学校教育自己診断、授業アンケート等で学校の課題が明確になってきている。教職員が団結して、改善や特色を打ち出す取組を進めてほしい。 ・教員本位の見方や指導ではなく、生徒がどう受け止めているかということにも配慮が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくり	(1) ア ・校内公開授業の機会や授業アンケートを活用して授業改善を推進する。	(1) ア ・全教科で1回以上の校内公開授業を行う。 ・授業アンケート「6 授業では自ら考え表現(記述、発表、作品、パフォーマンスなど)する活動が多く取り入れられている」の肯定的評価 80%以上維持。 [89.1%] ・学校教育自己診断「考えをまとめたり発表したりする機会がある」80%以上。 [89.1%]	(1) ア ・校内授業公開週間を実施 ○ ・授業アンケート「6 生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている」87.4% (3.36/4) ○ ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」89.8% ○
	(2) 新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり	(2) ア ・教務国際課が中心となって各教科の評価内容・方式を集約し共有する。	(2) ア ・各教科の評価内容・方式を整理して全教職員で情報共有する。 ・よりよい「学び方」を身につけさせる実践の情報交換を行う。	(2) ア ・各教科の取組内容を教科代表者会議で集約し、教職員全体で共有した。 ○
	(3) 総合的な探究の時間(LINC)	(3) ア ・指導計画をもとにグループに分かれた「課題研究」に取り組ませる。	(3) ア ・生徒によるポスター発表(中間期)、成果発表会(年度末)を校内で実施。 ・代表者は LETS 合同発表会に出場する。 ・学校教育自己診断「『総合的な探究の時間』は役に立つと思う」70%以上。 [74.2%]	(3) ア ・計画通り実施し、代表者が LETS 合同発表会に出場。 ○ ・学校教育自己診断「『総合的な探究の時間』は役に立つと思う」60.2% △ →次年度より、校内委員会でも組織的に計画・実践を進めていく
	(4) 英語教育と国際教育	(4) ア ・外部試験を活用して実践的な英語教育を推進する。 ・スピーキングなど表現力を育む指導を工夫・推進する。 イ ・創意工夫により海外等との交流を図り異なる文化と接する機会をつくりだす。	(4) ア ・GTEC(1・2年)全員対象に実施。 ・GTECの結果を共有し指導に生かす分析ペーパーを6月末までに作成。 ・スピーキングテストを各学年で複数回実施する。 イ ・オンラインを活用した国際交流を1回以上実施する。	(4) ア ・計画通り実施 ○ ・スピーキングテストを1年で7回、2、3年で6回実施 ○ イ ・韓国から来日した高校生と交流を実施。ホームビジットも実施できた。 ○
	(5) ICT等の活用	(5) ア ・ICTを積極的に授業で活用し学習効果を高める。	(5) ア ・LINCでのICT活用率100%。 ・効果的なICTの活用実践事例の情報共有の場を校内において年間3回開催する。	(5) ア ・LINCでのICT活用率は100%を達成。 ○ ・ICT活用チームによる参加体験型の校内研修を3回実施。 ○
	(6) 希望進路達成率	(6) ア ・体系的、組織的に「パーソナルベスト」な進路指導を推進する。	(6) ア ・希望進路達成率(第2希望含む)80%以上を維持する。 [81.2%]	(6) ア 80.3% ○
2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成	(1) 生徒会活動の活発化、学校行事の充実およびクラブ活動の充実	(1) ア ・生徒会により安心して安全な学校行事計画の立案と実施を進めさせる。 イ ・クラブ活動加入率増加をめざし、年度当初のクラブ見学を充実するとともに、各クラブが成果を出せるよう活性化委員会や後援会が支援。年度途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。	(1) ア ・生徒会主導の学校行事を年間3回以上実施する。 ・学校教育自己診断「生徒会活動が活発である」肯定的評価85%以上 [85.4%] アイ ・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」85%。 [81.7%] イ ・クラブ加入率75%を達成する。 [72.6%]	(1) ア ・新入生歓迎会、体育祭、文化祭、クリスマス会などを実施 ○ ・学校教育自己診断「生徒会活動が活発である」81.8% △ アイ ・学校教育自己診断生徒「学校に行くのが楽しい」76.0% △ →生徒会部で原因分析し、対策を検討。 イ ・クラブ加入率75.3% ○
	(2) 人権教育の推進	(2) ア ・人権感覚を高めるため、職員人権研修を実施する。 ・複数の教員が校外の人権研修に参加し、校内でフィードバックする。 イ ・人権ホームルームを実施し、人権感覚豊かな集団づくりを進める。	(2) ア ・学校教育自己診断「体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導がおこなわれている」80%以上。 イ ・学校教育自己診断「環境・国際理解・人権や福祉について学ぶ機会がある」80%以上。	(2) ア ・「体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている」94.2% ◎ イ ・学校教育自己診断「環境・国際理解、福祉ボランティアなどについて学習する機会がある」69.5% △ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」88.1% ◎ →LINC等と関連させ、計画的に実施できるように検討する。
	(3) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校づくり、メディアリテラシー教育推進	(3) ア ・遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。 イ ・メディアリテラシー教育(SNSに関する指導)を計画的に行う。また折に触れ担任などからSNSの使い方などについての指導を実施する。	(3) ア ・年間総遅刻件数1,400件。 [1,421件] イ ・生徒指導課長講話、外部講師による講演、その他、人権委員会の取組みなどで年間3回以上の組織的な指導を行う。	(3) ア ・年間遅刻件数1,844件 △ イ ・1年人権研修(人権委)、人権HR(担任)、人権通信(人権委)、全校集会(生徒指導課長)等で年間6回の生徒への指導を実施し、併せて外部講師を招き、HR活動に関する内容で教職員人権研修を実施。 ○
	(4) キャリア・パスポートの活用	(4) ア ・キャリア・パスポートを活用して生徒一人ひとりの目標設定と達成に向けた進捗、そして達成状況を振り返らせる。	(4) ア ・年間3回(目標設定・進捗・達成)振り返りの機会をつくる。	(4) ア ・各学年とも計画通り実施 ○ →今後一層効果的な活用を進める。

府立佐野高等学校

3 家庭や地域、世界とつながり、発信していく学校づくり	(1) ユネスコスクールの活動	(1) ア ・ユネスコスクールとして国内外に情報発信を行い、その取組みを校内の共有財産とする。 ・地域への貢献活動を推進する。	(1) ア ・全国あるいは地域の発表会やコンテスト等に1回以上参加する。 ・地域への貢献活動への参加及び実施。	(1) ア ・ASPnet 学びあいワ-クショップに参加 ○ ・ユネスコ部が海岸清掃、子ども食堂、福祉施設等でのボランティア実施。 ○
	(2) 保護者・地域への情報発信	(2) ア ・ホームページなどから本校の教育理念や行事等の取組み状況を保護者・地域に発信して本校に対する理解を促進する。 イ ・在校生の様子を母校（中学校）へ発信して中学生や関係者が本校に関心を持ってもらえるように働きかける。 ・泉佐野市等が主催する様々な地域イベントに参加する。 ・広報スタイルをさらにブラッシュアップし、広報媒体（チラシ・リーフレット、ホームページ）に継続的に工夫を加える。 ・国際教養講座など国際教養・文化科独自の取組みを国際 G 中心に組織的に発信計画を立てる。	(2) ア ・保護者・地域向け情報をホームページより毎月3回以上は発信する。 ・泉南地域の全公立中学校を訪問する。 イ ・在校生メッセージを母校へ届ける。 ・地元泉佐野市などで開催される地域イベントなどに参加する。 ・ホームページを充実し、週に3回以上の情報発信を行う。 ・毎月1回以上国際教養・文化科の取組みを発信する。	(2) ア ・HP は毎月3回以上更新（7月～1月で57回） ○ ・9月に高石市以南の全公立中学校を訪問した ○ イ ・新型コロナウイルス感染症の感染対策で母校訪問は自粛 △ ・ダンス部、吹奏楽部、美術部、書道部、軽音楽部等が地域イベント等に参加 ○ ・7月～1月まで57回（月3～17回）情報発信 ○ ・8、9月を除き、各月1回以上の情報発信ができています ○ →令和5年度より新たに広報委員会を設置し、「生徒の姿が見える広報活動」を実施するべく、上記以外の方法も含め、検討を進めていく。また、広報媒体の刷新に着手している。
	(3) ノークラブデー活用と働き方改革	(3) ア ・ノークラブデーと働き方改革の理解を深め、実践につなぐ。	(3) ア ・月間超過勤務時間80時間以上人数（のべ）を30人以下にする。 [14人]	(3) ア ・のべ41人 △